

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／町田 哲

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

現在、科学研究費(若手研究B)に「近世阿波における山村の生業と流通に関する構造的研究」(2010-12年度)が採択されており、研究を遂行している。その成果を年度内にまとめ、ひろく公開する。また、その上で、次年度の科研費採択にむけて申請できるよう、研究をさらにステップさせていく。

2. 点検・評価

科学研究費(若手研究B)に「近世阿波における山村の生業と流通に関する構造的研究」(2010-12年度)の成果をもとに論文発表を行い、その成果をさらに発展させるべく、新規科研費(基盤C)として「近世阿波における森林資源と地域社会に関する構造論的研究」(2013-15年度)を申請した結果、新規交付を獲得することができた。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

- ①学部生に対し大学院進学の道もあることを示唆し、動機付けする。
- ②大学院説明会に参加し、社会系コースや歴史学の魅力を丁寧に伝え、勧誘する。
- ③学会等で知人の大学教員に呼びかけ、本学へ学生の進学を要請する。

2. 点検・評価

大学院説明会に参加することはできなかったが、学会等で知人の大学教員に呼びかけ、本学へ学生の進学を要請した。また、学部生に対し大学院進学の道もあることを示唆し、動機付けを行った結果、ゼミ生1名を大学院に進学させることができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①社会科教育で重要な、地域史の方法と実践について、理解を深められるよう授業を進める。具体的には、地域で誠実に生きる人々の営みが歴史を動かしていることへの理解が得られるよう努力する。
- ②社会科教育の教材(日本史)に関する担当講義の充実を図る。その際、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点、この2つを養うようにする。
- ③学生の自主・自立を尊重しながら、学生の進路・悩み等の相談に随時応じる。

2. 点検・評価

社会科教育で重要な、地域史の方法と実践について、理解を深められるような授業を構成し、担当授業の充実を図った。とくに歴史学演習Ⅱでは、鳴門市撫養の大道銀天街周辺の1960～2012までの変化を住宅地図等で比較・分析することができた。あわせて、玉屋文書の解説・分析を進めている。こうした点から、地域の歴史の変容を解明するとともに、学生自身が、地域学習に関する能力をつけることを目標に、努力することができた。なお、学生の自主・自立を尊重しながら、学生の進路・悩み等の相談に随時応じた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①鳴門教育大学附属図書館所蔵『後藤家文書』を使った研究を深め、四国遍路文化や藍作地域の構造など、徳島の地域に根ざした歴史研究を継続的に進める。
- ②「近世阿波における山村の生業と流通に関する構造的研究」と題して、科学研究補助金をうけ研究を遂行しているが、最終年度にあたる2012年度は、その成果を公表できるように進めていく。

2. 点検・評価

- ①附属図書館所蔵の『後藤家文書』とは別に、最近発見された『後藤家文書』(もともとは同一史料群)を借用し、学生・院生とともに現在整理に当たった。
また本年も徳島県教育委員会から事業委託をうけ、札所寺院の詳細調査として、18番恩山寺の文化財詳細調査を実施し、調査事業報告書を作成した。さらに『「四国八十八ヶ所霊場と遍路道」調査報告書3 舎心山常住院太龍寺』(徳島県教育委員会、2013年3月)に執筆、貢献することができた。
- ②科研費研究(若手研究B)「近世阿波における山村の生業と流通に関する構造的研究」(2010-12年度)の最終年度の研究成果を、「近世後期における徳島藩の御林と請負—那賀川中流域を事例に—」(『鳴門史学』26、2013年2月28日、49～83頁)、「近世前期徳島藩における御林制度」(『鳴門教育大学研究紀要』28、2013年3月15日、377～391)、「近世前期徳島藩の御林と御林番人—那賀川中流域を事例に—」(『史窓』43、2013年3月31日、53～75頁)として発表することができた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①社会系コース、人文・社会系教育部の一員として、所定の各種会議に参加し、職務を遂行する。
- ②学部・大学院FD専門部会部会長として、職務を遂行する。

2. 点検・評価

- ①社会系コースからの学部教務委員として、職務を遂行している。
- ②また、教務委員会から選出された学部・大学院FD推進委員会の一委員として、FD推進事業の実施にむけて努力した。とくにFD事業の全体会では「人文・社会教育部のワークショップから考えること」と題した小報告をおこない、授業実践の中で考えることを発表した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①鳴門史学会等における研究活動を通じて、地域との人的、学術的な交流を図る。
- ②附属小中学校の実習・研究会等にできるだけ参加・支援する。

2. 点検・評価

- ①鳴門史学会では、代表として大会・例会活動を実施している。特に10月13日に「古代の阿波を考える」をテーマに大会を開催した。本学木原克司教授と徳島県埋蔵文化財センター藤川智之氏を招き、学術的な交流を図った。
- ②「歴史資料保存ネットワーク・徳島」の設立に関わり、設立集会「地域の歴史資料を守り、伝え、活かす。」を開催することができた。あわせて、災害時のみならず普段からの地域の歴史への関心について、広く市民に呼びかけた。
- ③附属中学校や協力校での実習および実習生の授業研究会に参加し、支援した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本学がリードしている「四国遍路と地域文化」についての研究プロジェクトの実績を踏まえ、本年度も、徳島県からの受託事業として、四国八十八カ所寺院の文化財詳細調査(「世界に誇る四国遍路モデル事業」の寺院詳細調査)を実施した。とくに18番札所恩山寺については詳細調査を進めるとともに、「阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員」としてその史料的価値の証明を果たすことにむけて努力した。こうして、県の活動に協力しつつ、本学がになうべき積極的な地域貢献の一つを担うことで、地域の要望に応えることができた。